

自治協だより

地震に備えよう！

～防災豆知識 パート2～



2011年3月11日は東日本大震災が発生した日です。マグニチュード9.0、最大震度7を記録する東北地方太平洋沖を震源とするプレート型の大地震で、1万8千人を超える死者・行方不明者がでる未曾有の大災害でした。今後、東日本大震災を超える規模の南海トラフ地震の発生が30年以内に70～80%の発生確率で予想されているなか、その時に備えて何を準備すればいいのか一緒に考えてみましょう。

皆さんの記憶にある一番大きかった地震は何ですか？生まれてからずっと伊賀に暮らしている方なら、震度4の揺れを観測した1995年1月17日の阪神淡路大震災を思い出すのではないのでしょうか。地震の揺れにびっくりして飛び起き、つけたテレビに映る煙が立ち上る神戸の市街地や無残に倒壊した高速道路が今でも記憶に残っています。

こんなに大きな地震が伊賀市で起こったら…と考えると怖くて仕方がありません。しかしながら、168年前の1854年には安政伊賀上野地震として知られる大災害が発生しています。笠置町から柘植あたりまでJR関西本線に沿って伸びる木津川断層を震源とする直下型地震で、推定規模は阪神淡路大震災と同程度以上の地震でした。

城下町のいたるところで家屋が倒壊し、600名を超える方が亡くなる大災害でした。藤堂藩で作成された被災の絵図面(伊州御城下破崖損所絵図)や惨状の記録等がちゃんと残されています。

今後、再び大きな地震が伊賀市で発生するかもしれません。そんなとぎのために、せめて阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震など近年発生した災害の教訓をもとに、地域での防災対策を進めていければと考えています。阪神淡路大震災では、倒壊家屋の下敷きになった人のうち、なんとか助かった人の90%は、自力で脱出できたか隣近所で助けてもらえた人です。上野南部地域でも「向こう3軒両隣、ご近所との絆を取り戻そう」運動を実施していますが、近所同士顔の見える関係を築き、いざという時に助け合える体制を作っておくことはとても大切です。

一度、想像してみてください。今、大地震が発生したとして、あなたは、ご家族は大丈夫ですか？家屋の倒壊や家具の下敷きに巻き込まれていませんか？大丈夫だったなら、隣近所の方に「大丈夫か？」と声をかけてあげられますか？ちゃんと一緒に避難ができますか？

これから起こるかもしれない災害に備えて、上野南部地域の団結力を高め、助け合いが当たり前に行えるような地域を目指していきましょう。



「上野南部地区の歴史と文化」史跡編より

伊賀鉄道 跨線橋 (西平尾拱渠)

旧上野市街地の南部エリアを走る伊賀鉄道。
その伊賀鉄道の茅町駅と桑町駅の間に煉瓦造りの
跨線橋があります。

今から百年程前、大正 11 (1922) 年上野町
(現上野市駅) から名張【のちの西名張駅、昭和 39
(1964) 年廃止】間が開通した頃建造され百年以上
経った今も現役の跨線橋として使用されています。

また、欄干の十字の細工やレンガの組み方に当時の
職人さんの技術の高さがうかがえます。



所在地 伊賀市上野桑町

お知らせ

61号で募集致しました新しいロゴマークデザインは、
運営委員会で協議の結果、上野鉄砲町在住の西村力哉さん
のデザインを採用しました。

4月から、ホームページや自治協だより等に活用して
いきます。



新ロゴマーク

編集後記 1年間お届けした自治協だよりの広報部員を紹介します

上田部長：素晴らしいメンバーと活動出来た事を感謝し、今後も発信を続けてまいります。

藤田副部长：これからもコロナ禍に負けずに自治協だよりをお届けしていきます。

宮田事務担当：HPと新聞を編集しています。地域の情報をわかりやすく発信していきます。

浅井：自治協だよりを楽しみして頂けるような紙面作りを心掛けています。

大谷：コロナ禍で事業が減っています。記事になる地域からの情報提供をお願いします。

木宮：上野南部地域がときめくような情報を発信できればと思っています。

栗本：地域の事業や出来事を伝えることの大切さを噛みしめながら取り組んでいます。

田中：地域と密着した情報を収集、発信していきます。

森田：南部地区行事で紙面が一杯になりますよう「コロナ撲滅」“喝”。

米田：楽しいお知らせをたくさんお伝えできるといいなあと思っています。